

41 数種の羊毛・合成繊維用螢光増白染料（家庭用） の特性

お茶の水女子大 林 雅子
高見 敏子

1 羊毛・合成繊維用の主要な家庭用螢光増白染料数種につき、構造・純度、染色性・螢光特性・堅牢度特性などをしらべ、適正な使用法を検討する目的で実験を行った。

2 市販の試料4種（アミランホワイト・白元・白ダイ・白染）を中心に、分光吸収特性から構造・純度をしらべ、ナイロン・アセテート・羊毛の3種の繊維織物について、螢光特性・染色特性・堅牢性などを検討した。

3 構造・純度 アミランホワイトを除き、何れも同一構造系の原末を主剤として居り、何れも工業用原末を5～6倍に稀釈配合している。

染色性・螢光特性 染着量—螢光強度曲線をえがくと、高染着濃度側で螢光強度の低下が見られるが、繊維によりその濃度にかかなりの差異がみとめられた。浴比・温度・時間等の染色条件を検討した結果、1：40～50、50～60°C、20～30分が適正である。

堅牢度特性 洗たく堅牢度はかなり低く、木綿用でみとめられた螢光増感の現象は全く認められなかった。ピンクエマール 0.5% 溶液の使用により螢光強度はかなりよく保持される。

日光堅牢度は著しく低い。このため特に直射日光を避けた乾燥が、螢光強度の保持のため不可欠である。